

児童発達支援

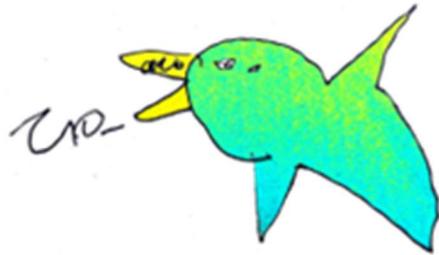
Plat



株式会社 Glove Support

経営理念

私たちは地域福祉に貢献し、様々なハンデや特性でお悩みの当事者ならびにその家族を支える伴走型社会の実現を目指します。



plat

支援方針

- ・なんかここにくると ほっとする
- ・すきなせんせいがいて、なんでもはなせる
- ・いっしょにあそぶ ともだちがいる
- ・どんなじぶんでも「それでいいよ」っていつてくれる
- ・まいにちちょっと わくわくすることがある
- ・のんびりできて、ここにいるとじぶんらしい …etc.

全肯定+みんなで育つ



【大目標】



子ども一人ひとりが安心して過ごせる“心の居場所”をつくること。

活動や学びの前に、「安心して自分でいられること」を何より大切に、遊び・対話・関係性の中で“楽しいから育つ”支援をめざします。

ぽこあぽこ 支援の三本柱

1 じぶんでやってみる力

「できる」「むずかしい」をじぶんで感じて、やってみよう！とおもう気持ちをそだてます。失敗してもだいじょうぶ。じぶんで考えるきっかけを大切にします。

2 ひととつながる力

「てっだって」「いっしょにしよう」といえること。だれかの気持ちに気づくこと。あそびやかかわりのなかで、やさしさとかことばを育てます。

3 あしたにつながる力

「おしごとってなんだろう？」「だれかのやくにたつってうれしいな」そんな“はたらく”のたねを、まいにちの小さな活動のなかで見つけます。つくる・まもる・かんがえる—そのぜんぶが未来につながります。

「ぷらっと」では、「**全肯定**」の支援を大切にしながら、子どもたち一人ひとりのペースや気持ちに寄り添い、**安心**して“じぶんのまま”でいられる時間をつくります。

支援プログラムは、厚生労働省の発達支援ガイドラインに示されている「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言葉・コミュニケーション」「人とのかかわり」の**5つの育ち**のポイントをもとに、「ぷらっと」独自の6つのカテゴリ(くらし・からだ・ことば・ところ・あそび・みらい)で構成しています。

「**できた!**」の小さな瞬間をたいせつに積み重ねながら、「やってみたい!」「**伝えたい!**」という気持ちを育て、自信とよろこびにつながる支援をめざします。

ぷらっとの6つのそだち

——「くらし」「てさき」「ことば」「からだ」「こころ」「みらい」——すべての活動は、遊びの中に「生きる力」を育む小さな種です。できた！うれしい！たのしい！——そんな気持ちを重ねながら、子どもたちが“じぶんらしく育つ”ことを支えます。

くらし × 健康・生活

「じぶんでできた！」がふえるまいにちを。ふくをたたむ、てをあらう、ものをしまう——。あそびのようにたのしみながら、生活のちからを育てます。予定や手順がわかるように見える工夫をしながら、少しずつ“自分でやってみよう”という気持ちをはぐくみます。

てさき × 運動・感覚

手は「こころ」とつながるたいせつなきかん。はさみでチヨキチヨキ、ねんどをコネコネ、ブロックをくみたてたり——あそびのなかで“うごき”と“かんじ”をたのしみます。「できた！」のよろこびをいっしょに感じながら、手をつかうことがすきになる気持ちをふやしていきます。

ことば × 言語・コミュニケーション

「はなすって、たのしい！」を感じることからはじまります。えカードやジェスチャーを使って、ことばのやりとりをたのしみます。「おねがい」「ありがとう」「どうぞ」など、やさしいやりとりを通して、じぶんの気持ちを伝えるちからを、あそびのなかで育てていきます。

からだ × 運動・感覚

からだをうごかすと、こころもスツキリ！ストレッチやゲーム、バランスあそびなどで、うごくことのたのしさをたっぷり感じます。力かげんをまなんだり、バランスをとったりしながら、のびのびとじぶんの体をあつかえるようになります。

こころ × 健康・生活 & 人間関係・社会性

「こころがおだやかだと、まいにちがもったのしい」。きもちを言葉にしてみたり、絵にしてみたり、深呼吸をしてみたり。いろんな“じぶんをととのえる方法”をいっしょにさがします。だれかとくらべない安心のなかで、「いまのじぶん」をたいせつにします。

みらい × 認知・行動 & 社会性

「すきなこと」「やってみたいこと」をみつけるのが、みらいのはじまり。あそびや製作のなかで、「つくる」「まもる」「つたえる」よろこびを知ります。しごとごっこやゆめマップづくりをとおして、「じぶんの“すき”がだれかの“ありがとう”につながる」体験をふやしていきます。

子どもたちの「**すき**」や「**とくい**」は ひとりひとり ちがいます。

おなじあそびでも、ある子にとっては **わくわく**するチャレンジ、べつの子にとっては ころを落ちつける **たいせつ**な時間です。

ぷらっとでは、「**できること**」をふやすだけでなく、「**じぶんらしくいられる時間**」をつくることも支援の一部と考えています。

そのため、支援プログラムに“きまったかたち”はありません。発達段階・感覚特性・興味関心をふまえて、**その子に合った環境調整**と関わり方のデザインを行います。

「この子には **どんなサポート**が **しっくりくる**かな？」

「いま **どんなこと**に **心が向**いているかな？」

——そんな問いかけを大切に、

子ども自身が「**たのしい!**」「**もっとやってみたい!**」と感じられる瞬間を軸に、

一人ひとりの育ちを**支えます**。

ぷらっとの支援プログラムは**無限大**。

それは、子どもたちの“**その子らしさ**”を尊重し、未来への可能性を最大限にひらくための個別最適な支援 (individualized support) です。

私たちは、子どもたちが**安心して**自分を表現し、一歩ずつ**成長**できる“**伴走の場**”をつくります。

ぷらっとの支援は、子どもの**自己決定・自己表現・自己効力感**を重視しています。



「教える」ではなく「**見つける**」「**共に考える**」支援を通じて、
子ども自身が自らの成長を感じられるよう環境を整えます。

事業所名		児童発達支援 Plat				支援プログラム（参考様式）			作成日	2026年	3月	10日
法人（事業所）理念		私達は地域福祉に貢献し、様々なハンデや特性でお悩みの当事者ならびにその家族を支える伴走型社会の実現を目指します。										
支援方針		「Plat」では、「全肯定」の支援を大切にしながら、子どもたちが“じぶんらしく”成長できる環境をつくります。支援プログラムは、厚生労働省の発達支援ガイドラインに示されている「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」の5つの発達領域をもとに構成。「Plat」独自の6つのカテゴリ（くらし・てさき・ことば・からだ・こころ・みらい）を設定し、あそびや日常の中で、自然に力が育つようにサポートします。一人ひとりの発達段階・感覚特性・興味関心に合わせたオーダーメイドの支援を行い、「できた!」「やってみたい!」という気持ちを大切に育てていきます。目指すのは、“できるようにする支援”ではなく、“やってみたいと思える環境”をととのえる支援。子どもたちが安心して挑戦し、自信を育てていけるよう伴走します。										
営業時間		8時	30分から	17時	0分まで	送迎実施の有無		あり	なし			
支援内容												
本人支援	健康・生活	生活リズムをととのえながら、着替え・歯みがき・食事・トイレなどの身のまわりのことを「いっしょにやってみる」なかで覚えていきます。絵カードやタイマーなどの視覚的な支援を使って、「つぎに何をしたらいいか」がわかる安心感をつくります。あそびやロールプレイを通して、社会でのマナーや「ありがとう」「どうぞ」といったやりとりも、自然に学べるよう支えます。										
	運動・感覚	ストレッチやリズムあそび、感覚あそびを通して、体の動かし方やバランス感覚を育てます。感覚の過敏さや鈍さに合わせて環境を調整し、安心して体を動かせるようサポート。のびのびとした動きの中で、ボディイメージ（自分の体の感覚）や力のコントロールを身につけていきます。										
	認知・行動	「考える」「選ぶ」「やってみる」経験を通して、自分で行動をコントロールする力を育てます。活動の中では、成功体験をポジティブに強化しながら、「できた!」を積み重ねます。必要などときにはさりげない手助け（プロンプト）を行い、少しずつ自立的な判断や切り替えができるようサポート。自分で気づき・工夫できる思考の柔軟さを育みます。										
	言語コミュニケーション	言葉や表現を通して「伝える」「わかり合う」楽しさを育てます。絵カード・ロールプレイ・SSTなどを活用しながら、ことば・表情・しぐさなど多様な手段で気持ちを伝える練習を行います。適切なやり取りができたときはポジティブに強化し、「伝わるってうれしい!」という体験を積み重ねます。職員がお手本（モデリング）を示し、少しずつ自分から言葉を選び、相手の気持ちをくみ取る力を育てます。										
	人間関係社会性	あそびやグループ活動を通して、「一緒にいるって楽しい!」という気持ちを育てます。SSTやロールプレイを取り入れながら、順番を待つ・譲る・協力するなど、集団の中での基本的なやり取りを学びます。職員がお手本（モデリング）を示し、上手に関われたときはポジティブに強化して、「できた!」という経験を積み重ねます。あいさつや感謝の言葉を自然に伝えられるようになり、相手の気持ちを感じ取る力や思いやりの芽を育てます。										
家族支援		子どもの成長は、家庭と支援の両輪で育まれます。「Plat」では、保護者が安心して子育てできるように、個別相談や家庭での関わり方のヒントを丁寧に共有します。また、子どもの小さな成長と一緒に喜び合いながら、家庭と事業所が“チーム”として共に育つ関係を大切にしています。定期的に懇談会を開催し、保護者同士の交流や情報交換の場を設け、子育ての悩みを分かち合いながら、みんなで子どもたちの未来を育てていく時間をつくります。				移行支援		就学や地域生活へのスムーズな移行を目指し、「できること」を少しずつ増やす練習を行います。幼稚園・保育園・小学校・家庭と連携し、それぞれの環境で安心して過ごせるよう支援の一貫性を大切にします。子ども自身の「やってみたい」を尊重し、次のステップでも自分らしく挑戦できる力を育てます。				
地域支援・地域連携		子どもたちが地域の中で安心して過ごせるよう、“地域とつながる第一歩”を大切にしています。園や家庭だけでなく、近隣の公園・図書館・店舗など、身近な地域資源を活用した体験活動を通して、外の世界に少しずつ親しんでいきます。また、地域の保育園・幼稚園・小学校・行政機関と連携し、就学や地域生活への橋渡しを行います。将来的には、地域の方々との交流を通して、「ありがとう」「こんにちは」から始まる小さな社会参加の芽を育てていきます。				職員の質の向上		継続的な学びとチームの成長を大切にしています。定期的な研修や勉強会の実施に加え、外部講師や専門機関との連携によって、最新の発達支援の知見や実践的スキルを職員全体で共有します。また、職員間のケース会議や日々の振り返りを通して、支援の一貫性とチームアプローチの質を高めます。保育士としての専門性を軸に、対話や関係づくりの力を磨きながら、「信頼される支援者」「学び続ける専門職チーム」の育成を目指します。				
主な行事等		季節の行事や体験活動を通して、子どもたちが“心を動かす経験”を積み重ねることを大切にしています。お花見・夏祭り・遠足・ハロウィン・クリスマス会などの年間行事では、友だちや職員との関わりを楽しみながら、社会的ルールやマナーを自然に学びます。また、活動を通じて、「できた!」という達成感や自己効力感を育み、生活スキルや社会性の発達を促します。家庭との連携を深めるため、月に一度の懇談会を実施し、保護者とともに子どもの成長を共有します。さらに、月に一度の「ぼこ支給」では、日々の取り組みを楽しく振り返りながら、努力や成長を“見える形”で評価する特別な時間を設けています。										